

□講義科目（共通科目）

科目名	看護学研究方法特論 I	2 単位
担当者	岡田 由香、白尾 久美子	
テーマ	看護学領域における研究方法の概要	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;            ①看護学研究の概要 ②研究目的の明確化 ③文献クリティーク ④研究デザイン・研究方法 ⑤データ収集と分析の方法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            多様な看護活動における看護現象を研究課題として、看護実践の質向上に繋がり、ひいては看護学の体系化に資する研究を継続して実施していくための基本的な看護研究方法に関する知識を身につけるために、一連の研究過程について学修する。研究課題を明確にするための文献検索と研究論文に対するクリティーク、研究課題を達成するための種々の具体的研究方法の概要と研究計画作成の基盤となる知識を習得し、また、研究の実施に必要な研究倫理などの基本姿勢への理解を深める。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            1. 研究を遂行する上で必要な基本的知識を理解し、活用できる。            2. 基本的な知識を基盤として、臨床現場における課題を研究計画につなげることができる。            3. 既存の文献で得られた知見について、看護実践への具体的活用を説明できる。            4. 看護研究者としての基本的態度を身に付け、真摯な態度で研究を遂行することができる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 看護学研究の概要：看護学研究の特徴と意義 第 2 回 研究疑問の明確化 第 3 回 看護研究における倫理 第 4 回 文献検索と文献検討 第 5 回 看護研究の方法 第 6 回 量的研究方法(1) 第 7 回 量的研究方法(2) 第 8 回 質的研究方法(1) 第 9 回 質的研究方法(2) 第 10 回 研究計画書の作成 第 11 回 文献のクリティーク(1) 第 12 回 文献のクリティーク(2) 第 13 回 事例研究について 第 14 回 研究計画書の検討・作成(2) 第 15 回 研究計画書の検討・作成(3)	
事前学習の内容 学習上の注意	履修上の注意 予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の 関連科目	看護学研究方法特論Ⅱ、各看護学領域の特論科目、各看護学領域の特論演習科目、特別研究	
テキスト	N. バーンズ、S. K. グローブ；黒田裕子他監訳(2023). バーンズ&グローブ看護研究入門 原著第9版 評価・統合・エビデンスの生成. 東京：エルゼビアジャパン. 黒田裕子(2023). 黒田裕子の看護研究 Step by Step 第6版. 東京：医学書院.	
参考文献	アメリカ心理学会, 前田樹海他訳(2023). APA 論文作成マニュアル 第3版. 東京：医学書院. 南裕子, 野嶋佐由美(2017). 看護における研究第2版. 東京：日本看護協会出版会. ＊その他の資料は適宜紹介する。	
成績評価方法 と基準	毎回の授業におけるプレゼンテーション(30%)や、文献クリティーク(30%)・研究計画書(40%)についての課題レポートで評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

<p>科目名</p>	<p>看護学研究方法特論Ⅱ</p>	<p>2 単位</p>
<p>担当者</p>	<p>岡田 由香、白尾 久美子</p>	
<p>テーマ</p>	<p>看護学領域における研究の具体的な方法(データ収集と分析)</p>	
<p>科目のねらい</p>	<p>&lt;キーワード&gt;            ①研究デザイン・研究方法            ②量的データの収集と分析の方法            ③質的データの収集と分析方法    ④研究論文のまとめ方            &lt;内容の要約&gt;            研究疑問を明らかにするという研究目的の達成に適切な研究デザインと質的および量的データ収集の具体的な方法の特徴と適用を詳細に学修し、研究計画作成に活用し実施できる知識を習得する。特に、質問紙調査法の質問票作成・インタビュー方法と質問内容決定・実験方法と実験項目などは目的と分析方法とを関連させながら検討する重要性を理解し、確実に実施・分析できるよう詳細に学ぶ。            &lt;学習目標&gt;            1. 研究目的達成のための研究デザイン選択について学修し、自らの研究に活用できる。            2. システマティックレビューについての理解を深め、説明できる。            3. 看護学研究におけるデータ収集とデータ分析についての理解を深め、活用できる。            4. 研究遂行や論文作成に対する誠実で真摯な態度で研究を遂行することができる。</p>	
<p>授業の進め方</p>	<p>第 1 回 研究論文のまとめ方とプレゼンテーションの方法            第 2 回 看護研究における各研究デザインの活用：標本抽出            第 3 回 研究目的達成のための研究デザインの選択：測定概念            第 4 回 研究目的達成のための研究デザインの選択：測定方法            第 5 回 データ収集とデータ分析：量的アプローチによるデータ収集方法の特徴            第 6 回 データ収集とデータ分析：量的アプローチによるデータ収集方法の特徴            （統計解析・記述統計・相関分析）            第 7 回 データ収集とデータ分析：量的アプローチによるデータ収集方法の特徴            （推測統計・差の検定）            第 8 回 データ収集とデータ分析：量的文献のクリティーク            第 9 回 データ収集とデータ分析：質的文献のクリティーク            第 10 回 データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ収集方法の特徴            第 11 回 データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ収集方法(インタビュー)            第 12 回 データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ分析            （コード化・カテゴリー化）            第 13 回 データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ分析(分析・解釈)            第 14 回 データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ分析            （グラウンデッド・セオリー法・エスノグラフィ）            第 15 回 データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ分析(質的記述的研究、現象学的アプローチ)</p>	
<p>事前学習の内容 学習上の注意</p>	<p>履修上の注意            予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。            復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。            その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。</p>	
<p>本科目の 関連科目</p>	<p>看護学研究方法特論Ⅰ、各看護学領域の特論科目、各看護学領域の特論演習科目、特別研究</p>	
<p>テキスト</p>	<p>N. バーンズ、S. K. グローブ；黒田裕子他監訳(2023). バーンズ&amp;グローブ看護研究入門            原著第9版 評価・統合・エビデンスの生成. 東京：エルゼビアジャパン.</p>	
<p>参考文献</p>	<p>グレッグ美鈴，麻原きよみ，横山美江編著（2016）よくわかる質的研究の進め方・まとめ方：看護研究のエキスパートをめざして. 第2版. 東京：医歯薬出版.            ジャニス M. モース，ペギー・アン・フィールド，野地有子訳(2012). モース&amp;フィールドの看護研究：質的研究を実際に始めるためのガイド. 東京：日本看護協会出版会.            小塩真司(2011). SPSS と Amos による心理・調査データ解析. 東京：東京図書.            ＊その他の資料は適宜紹介する。</p>	
<p>成績評価方法 と基準</p>	<p>授業におけるプレゼンテーション(40%)や、文献クリティーク(30%)・課題レポート(30%)で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。</p>	

□講義科目（共通科目）

科目名	看護教育特論	2 単位
担当者	新美 綾子、柴 邦代	
テーマ	専門職としての看護職が備えるべき教育技法についての知識と技術の理解を深め、看護活動の対象者のみならず、自己および同僚ならびに看護学生への教育力を培う。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;            ①看護教育 ②教育理論 ③技術教育 ④カリキュラム ⑤指導展開</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            専門職としての看護職が備えるべき教育技法を展開する力を培うために、教育の基本原理と方法の理解を深め、専門職養成教育および技術教育の特質を知り、適切な教育方法および効果評価に関する知識と実際を学修する。看護活動の対象者のみならず、自己、同僚、看護学生などへの教育指導展開について、既存のガイドラインなどを交えながら知識を深める。看護制度における基礎教育・継続教育・自己研鑽などの教育のあり方と課題について、他の専門職や他の国などと比較検討を重ねながら考察する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            1. 看護教育の基盤となる、教育に関する基本的知識を理解し、教育を展開する方法を習得できる。            2. 専門職養成教育および技術教育の特質を知り、適切な教育方法の原理と実際を理解できる。            3. 看護教育の基礎教育・継続教育・大学院教育など、段階に応じた教育について、既存の各報告書やガイドラインについて知り、今後の実施上の課題を検討できる。            4. 他の医療職種・専門職種の教育と制度や、他の国の看護教育制度などを知り、日本の看護教育との比較検討の中から、今後の日本の看護教育の在り方について考察し、討議できる。</p>	
授業の進め方	第1回 ガイダンス 看護教育制度、関連法規 ※ 受講生の背景や将来の進路により授業内容の一部を変更する可能性があります。 第2回 看護教育の歴史的変遷と教育課程の編成 第3回 教育・学習理論：看護学教育における授業展開を支える学習理論 第4回 成人教育実践と看護教育学研究 第5回 看護基礎教育に関する文献検討① カリキュラムの変遷と現行カリキュラム 第6回 看護基礎教育に関する文献検討② 看護技術教育 第7回 看護基礎教育に関する文献検討③ 授業設計、授業評価 第8回 看護基礎教育に関する文献検討④ シミュレーション教育 第9回 看護基礎教育に関する文献検討⑤ 看護学実習における学習活動と教授活動 第10回 看護基礎教育に関する文献検討⑥ 看護基礎教育における OSCE 第11回 看護継続教育に関する文献検討① 新人教育 第12回 看護継続教育に関する文献検討② 現任教育 第13回 看護教育・臨床現場における課題の検討① 第14回 看護教育・臨床現場における課題の検討② 第15回 看護教育・臨床現場における課題の検討③	
事前学習の内容 学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に講義のテーマについて、テキスト及び参考書、既存文献を熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨みましょう。</li> <li>・担当する内容はプレゼンテーションを行い、ディスカッションによりすすめます。</li> <li>・ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えを深めましょう。</li> </ul>	
本科目の関連科目	各看護学領域の特論科目、各看護学領域の実践論科目、各看護学領域の特論演習科目	
テキスト	未定	
参考文献	杉森みど里, 舟島なをみ (2021), 看護教育学, 第7版, 医学書院.	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション (40%), レポート課題 (60%) によって総合的に評価します。60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

科目名	看護理論特論	2 単位
担当者	池松 裕子、岡田由香、小笠原ゆかり、白尾久美子、水谷聖子	
テーマ	<p>主要な看護諸理論を、看護実践・教育・研究の看護活動との関係から分析検討して理解を深め、看護活動における活用を考察するとともに、理論特性と構築方法を学び、看護研究者として新たな看護理論を探求する基盤となる力を培う。</p>	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;            ① 看護理論 ②メタパラダイム（大理論） ③中範囲理論 ④看護活動</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            看護学の体系化に資する研究を継続するための基盤として、多様な臨床現場の看護現象を説明するための基本となる既存の看護理論について広く学び、看護理論の意義や必要性、理論構築過程について理解を深める。また、看護理論の発展の歴史的背景や、大理論や中範囲理論の代表的な理論について哲学的基盤・主要概念・適用範囲など、看護実践や教育、研究への活用について学修し、自らの関心領域や研究課題に関連して、特定の看護理論及び諸理論の適用の妥当性について検証し具体的に活用できる力を培う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護活動の基盤となる主要な看護理論について、哲学的基盤・主要概念・適用の妥当性などの基本的特質を理解して説明できる。</li> <li>2. 看護理論が看護活動で果たす役割と意義および理論が備えるべき特質ならびに理論の限界について説明できる。</li> <li>3. 看護理論に関するこれまでの研究について学修し、構築法について理解し説明できる。</li> <li>4. 他の医療職種・専門職種の活動を支える理論を知り、看護理論の在り方を考察し討議できる。</li> </ol>	
授業の進め方	<p>第 1 回 理論の特質 理論とは何か・理論の特質・看護理論の歴史 看護活動における意義（池松）</p> <p>第 2 回 理論の構築 理論の構築過程を既存研究の分析検討を通して理解する（池松）</p> <p>第 3 回 主要理論① 既存の主要な看護理論について、看護理論の哲学的基盤・主要概念・適用の妥当性などを理解する（ヘンダーソン/看護の定義）（岡田、ゲストスピーカーと共同）</p> <p>第 4 回 主要理論② 同上（ナイチンゲール/環境理論）（岡田、ゲストスピーカーと共同）</p> <p>第 5 回 主要理論③ 同上（薄井坦子/科学的看護論（小笠原）</p> <p>第 6 回 主要理論④ 同上（中範囲理論：バンデューラ/自己効力感（小笠原）</p> <p>第 7 回 主要理論⑤ 同上（中範囲理論：オレム/セルフケア理論）（岡田）</p> <p>第 8 回 主要理論⑥ 同上（中範囲理論：ストレス理論）（白尾）</p> <p>第 9 回 主要理論⑦ 同上（中範囲理論：危機理論）（白尾）</p> <p>第 10 回 主要理論⑧ 同上（中範囲理論：ペンダー/ヘルスプロモーション）（水谷）</p> <p>第 11 回 主要理論⑨ 同上（中範囲理論：行動変容ステージモデル）（水谷）</p> <p>第 12・13 回 自己の今までの看護活動を通して理論の活用についてふりかえり発表</p> <p>第 14・15 回 看護専門領域における理論の関係を討議し、自己の考えを纏める</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>各回の主題について理解が深まるように事前に調べて参加する。参加状況は評価対象とする。自己の今までの看護活動をふりかえり、理論との関係について分析検討し、発表する。また、討議により看護専門領域における理論の活用を考察する。各自発表したテーマに対する考察を課題レポートとして提出したものを評価対象とする。</p>	
本科目の 関連科目	各看護学領域の特論科目、各看護学領域の実践論科目、各看護学領域の特論演習科目	
テキスト	筒井真優美 編：看護理論家の業績と理論評価. 第 2 版 医学書院	
参考文献	<p>筒井真優美 編：看護理論 改訂第 3 版 看護理論 21 の理解と実践への応用. 南江堂.</p> <p>野川道子：看護実践に活かす中範囲理論 第 2 版. メジカルフレンド社</p> <p>Beth L. Rodgers 著・編 近藤麻里 監修：看護における概念開発 基礎・方法・応用 医学書院</p> <p>城ヶ端初子：新訂版 実践に活かす看護理論 19 第 2 版 サイオ出版</p>	
成績評価方法 と基準	課題レポート（60%）講義の参加度・プレゼンテーション（40%）。60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

科目名	家族支援特論	2 単位
担当者	山口 桂子	
テーマ	家族アセスメントと家族看護介入についての基礎的知識を習得し、これまでの家族看護実践を振り返る中で、家族看護に対する理解を深める。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;</p> <p>① 家族の健康 ②家族看護の基盤となる主な理論・モデル ③家族アセスメント ④家族看護における具体的な介入方法 ⑤家族看護実践の事例検討</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>近年の少子高齢社会に伴う、保健・医療・福祉制度の変遷に関連して、健康問題を有しながら生活する個人とその家族を取り巻く環境は大きく変化し、家族への負担が大きくなっている。家族員の健康問題に関わる生活上のニーズに応じて、家族がどのような対応や変化を求められるのかを推察しながら、家族の健康や生活について、系統的なアセスメントを行うための知識を学修する。また、その家族全体への支援を計画する上で有用な家族看護学の代表的理論やモデルについて学習し、その実践的な活用について理解を深める。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国の少子高齢社会を背景とした“家族”の実態を理解し、説明できる。</li> <li>2. 家族看護の基盤となる主な理論について学修し、説明できる。</li> <li>3. 家族看護に使われる主な看護モデルについて学修し、説明できる。</li> <li>4. 実際の経験事例などについて、基本的な家族アセスメントを行うことができる。</li> <li>5. 実際の経験事例などについて、介入方法を検討し、考察できる。</li> </ol>	
授業の進め方	<p>第 1 回 家族看護の歴史的背景とわが国における家族看護の動向</p> <p>第 2 回 家族の捉え方および家族の基本的構造と機能、家族の健康</p> <p>第 3 回 家族看護の基盤となる理論(1) 家族発達理論・役割理論</p> <p>第 4 回 家族看護の基盤となる理論(2) 家族システム理論</p> <p>第 5 回 家族看護の基盤となる理論(3) 家族ストレス・対処理論</p> <p>第 6 回 家族看護における代表的なモデル(1)カルガリー式家族アセスメント/介入モデル</p> <p>第 7 回 家族看護における代表的なモデル(2)家族エンパワーメントモデル</p> <p>第 8 回 家族看護における介入の具体的方法</p> <p>第 9 回 家族支援 CNS による家族看護実践例の紹介(ゲスト講師との共同開講)</p> <p>第 10 回～第 14 回 受講生の経験してきた家族事例の分析と家族支援に関する検討 (例)・在宅(地域)で高齢者を介護する家族への支援 ・慢性疾患を有する家族メンバーとともに生活する家族への支援 ・小児期の医療的ケアを担う家族への支援 ・救急搬送などの家族メンバーの急な変化に直面する家族への支援 など</p> <p>第 15 回 家族看護学における支援に関する課題と今後の展望(まとめ)</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>履修上の注意</p> <p>予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問などを明確にして授業に臨むこと。</p> <p>復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。</p> <p>その他：授業は受講生の発表と討議を中心に行われるため、各自、積極的な姿勢で参加すること。</p>	
本科目の 関連科目	各看護学領域の特論科目、各看護学領域の実践論科目、各看護学領域の特論演習科目	
テキスト	特に指定しない。	
参考文献	<p>鈴木和子・渡辺裕子(2019)家族看護学 理論と実践(第5版). 日本看護協会出版会.</p> <p>中野綾美・瓜生 浩子編 (2020) 家族看護学: 家族のエンパワーメントを支えるケア. メディカ出版.</p> <p>*その他の資料は適宜紹介する。</p>	
成績評価方法 と基準	毎回の授業におけるプレゼンテーション(30%)や、グループワーク資料(30%)・最終課題レポート(40%)について評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

科目名	保健医療福祉システム特論	2 単位
担当者	水谷 聖子、尾島 俊之、小島 香	
テーマ	厚生行政の機能と政策の仕組みについて学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;            ① ポリシー ② ニーズ ③ 社会資源 ④ 厚生行政 ⑤ 保健医療福祉制度</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            看護学研究の課題と成果は看護活動に還元される。看護活動は社会で展開され、社会を動かす保健・医療・福祉政策との関連を理解することは重要である。世界および日本で展開されている保健・医療・福祉政策の基本的考え方と政策決定過程とその影響要因を知るとともに、実際の医療などに関する今日的課題や将来予測まで広く学ぶ。政策過程における科学的根拠の重要性、政策分析から新たな政策提案など、保健医療福祉政策に対する建設的意見を生成できる力を培う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            1. 医学≠医療であり、 アイディアを出すことが政策の要ではないことを理解できる。            2. 保健医療福祉政策から保健医療制度がつくられるマネジメントの過程が理解できる。            3. 保健医療福祉政策をめぐるさまざまな課題が看護にも関連していることが理解できる。            4. さまざまな保健医療福祉政策を通じて看護についての課題解決方を理論的に提案できる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 保健医療福祉の定義と社会保障：学と論、医学と医療 第 2 回 日本の保健医療福祉政策とは 第 3 回 日本の保健医療福祉政策の歴史 第 4 回 保健医療福祉に関する法 第 5 回 保健医療福祉制度と資源配置 第 6 回 保健医療福祉に関するモデル 第 7 回 諸外国の保健医療福祉制度① 第 8 回 諸外国の保健医療福祉制度② 第 9 回 保健医療福祉と少子化 第 10 回 保健医療福祉と虐待 第 11 回 保健医療福祉とメンタルヘルス 第 12 回 保健医療福祉と介護 第 13 回 保健医療福祉情報とリスクマネジメント 第 14 回 保健医療福祉計画と評価：PDCA サイクル 第 15 回 保健医療福祉に貢献する看護	
事前学習の内容 学習上の注意	シラバスに基づき、講義内容に関する予習を行い講義に臨むこと。提示したテーマについて、講義とプレゼンテーションを交えながら展開する。事前に配布されたプリントや資料がある場合には、よく読んでおくこと。	
本科目の 関連科目	各看護学特論、各看護学実践論、特別研究	
テキスト	必要に応じて逐次指示・配布する	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・星旦二，麻原きよみ（編）（2022）これからの保健医療福祉行政論 第3版 法・制度としくみ/施策化・政策形成/地域づくり 日本看護協会出版会</li> <li>・『衛生行政大要 改訂第24版（2016）日本公衆衛生協会</li> <li>・『国民衛生の動向』『国民の福祉と介護の動向』『保険と年金の動向』（厚生指の指標 増刊）最新刊 厚生労働統計協会（著）</li> <li>・国民の福祉と介護の動向 最新刊1（厚生指の指標 8月増刊）いっつ 雑誌 - 2020/9/7 厚生労働統計協会（編集）</li> <li>・『医療政策論』（通信教育部指定教科書、日本福祉大学）</li> </ul>	
成績評価方法 と基準	プレゼンテーション（40%），レポート課題（60%）によって総合的に評価します。	

□講義科目（共通科目）

科目名	地域協働特論	2 単位
担当者	水谷 聖子、森 礼子	
テーマ	多機関、多職種との連携・協働による継続した健康支援	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;            ①地域包括ケアシステム    ②多職種連携    ③対象となる人々との協働            ④ソーシャルキャピタル    ⑤地域社会の醸成</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            看護活動はあらゆる健康状態の人々へ展開し、関連職種の人々との連携活動も多様である。地域連携活動の実際例を通して、地域で生活する個人・家族の尊厳の保持、自立生活の支援を目指し、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる多機関や多職種との連携・協働について学ぶ。また模擬事例や文献を通してケースマネジメント、多職種連携によるチーム支援を推進し、地域連携において展開できる能力を培う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            1. さまざまな疾病や障害がありながら生活する人々とその家族の、健康課題や生活課題を述べることができる。            2. さまざまなライフステージにおける健康障害と保健医療福祉との連携について理解できる。            3. さまざまな健康障害と保健医療福祉との連携について理解できる。            4. ソーシャルサポート、ソーシャルキャピタルの醸成に向けて人々と協働する地域社会づくりの必要性が理解できる。            5. 個から集団へのアプローチを通して、事業化、施策化を理解できる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 ガイダンス、国内における健康課題の変遷と動向 第 2 回 保健医療福祉の動向：地域医療改革と地域包括ケアシステム 第 3 回 健康の社会的決定要因・環境的決定要因 第 4 回 システムとしての地域社会 第 5 回 人々のつながり：ソーシャルネットワークソーシャルキャピタル 第 6 回 ライフステージ 1：乳幼児期の健康障害：医療依存度の高い乳幼児 第 7 回 ライフステージ 2：学童期の健康障害 第 8 回 ライフステージ 3：成人期の健康障害 第 9 回 ライフステージ 4：高齢者の健康障害 第 10 回 健康課題 1：単身世帯の健康障害 第 11 回 健康課題 2：ホームレス・生活困窮者と健康障害 第 12 回 健康課題 3：がん・介護 第 13・14 回 多職種連携教育の現状 第 15 回 乳幼児から高齢者までを包摂した地域包括ケア	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>提示する事前課題は、主体的に取り組み、指定の文献を精読してください。パートナーとしての地域で生活する人々と協働する活動、わが国の健康課題を踏まえた多機関・多職種との連携・協働に関する研究など、自身の研究分野に近い文献レビューを行い、レポートを準備してプレゼンテーションを行います。また、社会の動きに注意を払い、社会現象と地域看護を統合して考えることができるように学修を進めてください。</p>	
本科目の 関連科目	保健医療福祉システム特論、家族支援特論	
テキスト	使用しません。	
参考文献	重要文献を紹介し、適宜資料を配布します。	
成績評価方法 と基準	プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）によって総合的に評価します。	